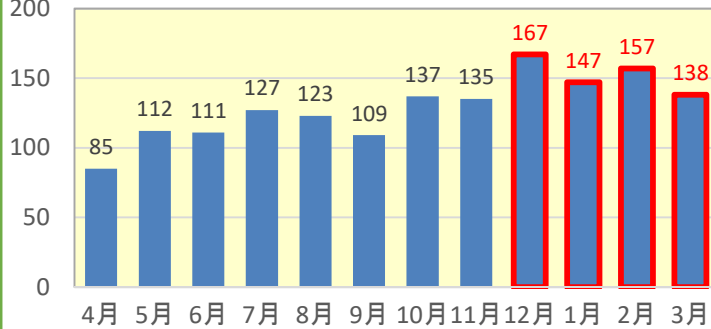


年度末を無事故で乗り切りましょう！ ～例年、年末から年度末を迎える冬季は事故が多発します～

ここ10年間の月別工事事務発生件数 (H21～H30)
(月別累計件数) ※もらい事故、熱中症を除く



厳しい寒さや降雪の季節になりました。例年、この時期は事故が多発します。通常の安全対策に加え、凍結・積雪による転倒事故、墜落・転落事故、路面凍結によるスリップ事故、暖房器具などによる一酸化炭素中毒といった冬季特有の事故にも注意が必要です。厳しい作業環境、作業が輻輳する時だからこそ、余裕のある作業計画を策定し、作業前には作業手順をしっかりと確認し遵守しましょう。

冬季特有の事故を防止するために

作業環境の確認を！

- 凍結や積雪がある場合は、**作業開始前に足場の安全を確認**しましょう。
- 重機に積もった雪を払いのけ、**ワイパーの作動を確認**しましょう。
- 想定外の突風が吹くことがあります。梯子や足場、看板など、しっかりと**固定され、ゆるみがないことを確認**しましょう。
- 適切な**暖房設備**を設けましょう。**一酸化炭素中毒の予防措置を講じ、消火器材を必ず備えておきましょう。**



冬は交通事故の多い季節！

- 余裕を持って**出発し、スピードは控えめ**にしましょう。
- 冬道は凍結や積雪によって滑りやすくなります。**車間距離は夏の倍以上**とり、**交差点へは減速**して近づきましょう。
- 悪天候や視界不良時には**昼間点灯を実施**しましょう。こちらの存在を知らせることも、事故防止には効果的です。
- 雪道での急ハンドル、急加速、急ブレーキといった**“急”な動作は厳禁**です。



昼間点灯を実施
急ハンドル
急加速
急ブレーキ
は事故のもと！

入念な防寒対策を！

- 身体が冷えた状態では指先が思うように動かないことがあります。**作業員の健康はもちろん、安全性や効率性の確保のためにも、防寒対策は重要**です。
- 防寒着の着用により身体の動きが鈍くなる場合があります。身体のサイズにあった、**ダブつきがないもの**を着用しましょう。
- 重機誘導者・交通誘導員がいつもより見えにくくなる場合があります。蛍光色や発光する**安全ベストを着用**しましょう。



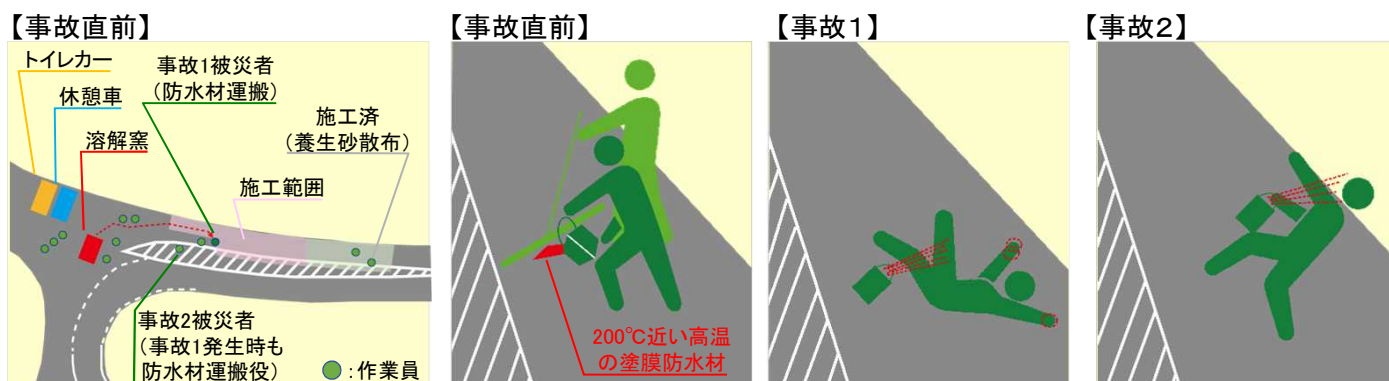
体調に注意！

- 冬は特に**高血圧や心臓病に注意が必要**です。寒さを感じると体温の発散を防ごうと血管が収縮し、**血圧が上昇**することがあります。寒い時期には血圧のコントロールが難しくなることを認識し、高血圧症やその傾向にある方は、より注意するようにしましょう。
- 血圧の変動が心臓発作の引き金になることがあります。心臓発作は前兆なしに突然起こることも多く、油断せず、**日々の体調管理をしっかりと**行いましょう。
- 寒さで身体が委縮し、動作・感覚が鈍ることがあります。**作業前には血行を良くするストレッチ体操**を行いましょう。



最近発生した重大事故事例

事例① 労働安全衛生法第29条第1項の違反による熱傷事故



【事故1】概要：橋面防水工（塗膜防水）の施工にあたり、一斗缶に入った熱せられた防水材を運搬・塗布作業中、誤って塗布済み箇所を踏んで足を取られ転倒し、防止材が作業員の手と足に飛散した。

被害状況：四肢第2度熱傷

【事故2】概要：事故1の負傷作業員を救護している最中、別の作業員が一斗缶に残った防水材で塗布作業中、防水材に足を取られ、一斗缶を蹴り上げてしまい、防水材が顔面に飛散した。

被害状況：顔面及び両眼瞼の熱傷

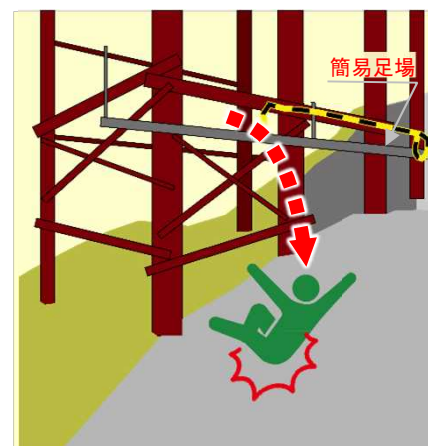
- 【主要要因】①労働安全衛生法またはこれに基づく命令の規定に違反しないように必要な指導を行っていなかった。
②保護衣、保護眼鏡等適切な保護具を備え付けていなかった。

事例② 作業手順遵守の確認不足による転落事故

【事故概要】 栈橋解体作業において、解体用簡易足場を設置した後、親綱を張ろうとした作業員が、バランスを崩して約3mの高さから転落した。

【被害状況】 第12胸椎（腰に近い位置の背骨）を骨折。

- 【主要要因】①作業高さが比較的低かったこと（1~3m程度）に加え、栈橋の筋交い部材等に親綱が引っ掛かる恐れがあったことから、親綱を一旦取り外して簡易足場の移動を行い、簡易足場設置時も親綱を取り外したまま作業をしていた。
②現場の判断で作業手順を変更していた。
③施工計画やKY活動において、墜落制止用器具使用の指導等、安全教育は実施されていたが、遵守されているかの確認は不十分だった。



安全な作業方法を確立したうえで、作業を行いましょ



- 安衛法等の関係法令を遵守することはもとより、適切な保護具を着用するなど、**危険作業を行うことを十分念頭においた、作業計画や施工手順を作成**しましょう。
- 作業にあたっては、**計画や手順で定められた保護具・装備を着用**しましょう。
- 予定外の作業をせざるを得ない状況になったら、**作業を一旦中断し、作業手順、方法、安全対策、配置などを確認し、他作業の作業主任者、作業指揮者にも周知**した上で、作業に取り掛かりましょう。
- **事故が発生した場合は、速やかに作業を中止**し、再発防止の検討を行いましょ。